

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(令和2年度分)

<県の評価等>

施設所管部名: 農林水産部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県民の森 (三重郡菟野町大字千草字西貝石 7181-3)
指定管理者の名称等	NPO法人 ECCOM 理事長 森 豊(三重郡菟野町千草 3927-1) (旧称:特定非営利活動法人 三重県自然環境保全センター)
指定の期間	平成 28 年4月1日～令和3年3月 31 日
指定管理者が行う管理業務の内容	1 県民の森の森林、植物等の管理に関する業務 2 県民の森の施設、設備の維持管理及び修繕に関する業務 3 県民の森の施設、設備の利用に関する業務 4 自然体験型イベントの実施に関する業務 5 ホームページ等による県民の森内の自然情報やイベント情報の提供に関する業務 6 生物多様性の保全に配慮した取組に関する業務 7 その他県民の森の管理上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R元	R2	R元	R2	
1 管理業務の実施状況	B	B			普段の清掃、適切な植物管理、日々の巡回による異常個所の早期発見など、施設の適切な維持管理、環境の美化に努めている。 また、森林の整備は公園ボランティア「モリメイト」との協働により適切に行われている。
2 施設の利用状況	A	A			年間利用者数の目標達成率は、A評価基準を上回る 144.4% (173,287 人)となり、評価できる。
3 成果目標及びその実績	B	B			施設満足度(目標80%に対し85.9%)、自然体験型イベントの満足度(目標92%に対し95.1%)ともに目標を達成した。

※「評価の項目」の県の評価：
「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・成果目標については、年間の施設利用者数、施設利用者の満足度、自然体験型イベント参加者の満足度の全ての指標で目標を達成している。 ・森林、植栽木、芝生等の植物管理を適正に実施し、良好な景観の維持に努めている。利用施設の保守点検、日常点検、清掃を適正に実施しており、利用者が安全で快適に利用できる環境を整えている。また、自然学習展示館が令和2年9月から工事のため休館となったことについて、利用者への適切な案内に努めている。 ・公園利用者のために、インターネットによる広報や利用受付も行い、イベント情報を中心とするメールマガジンを希望者へ配信するなど情報発信を積極的に行っている。 ・イベントについては、新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで、観察会等の自然体験型イベントやものづくり、展示会等も含めて、62回(このうち自然体験型イベントは53回)開催しており、自然体験型イベント参加者の満足度は95.1%と高く、積極的に自然とふれあう場を提供している。 ・「みえ生物多様性推進プラン」に沿って、希少動植物の保護や外来生物の駆除などの取組を行っており、生物多様性の確保に努めている。また、四日市西高校が主導するフクロウ保護プロジェクトにも協力している。 ・業務執行体制については、事務分担・責任の所在を明確にするとともに、職員を三重県民の森管理事務所に常勤として3名、非常勤として3名配置している。また、危機管理に関しても、
--------	--

マニュアルを作成し、自然災害や公園内での事故対応及び報告体制を平日・休日ともに整備し、適切に対応している。

- ・利用者のニーズにあった公園管理を適切に実施したことにより、令和2年度においても令和元年度に続き全ての目標を達成し、森林、環境学習のための利用者の増加や、より良いサービスの提供につながられている。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、県の「新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた三重県指針」に基づき、来園者への対応やイベントの中止などに適切に対応しており、今後も引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行うとともに、利用者の満足度向上につながる新たなサービスの提供に取り組まれない。

<指定管理者の評価・報告書(令和2年度分)>

指定管理者の名称: NPO法人 ECCOM

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1) 管理業務の実施状況

① 三重県民の森管理事業の実施に関する業務

誰もが日常から気持ちよく来園できるよう、植物管理、施設管理をはじめとした園内管理を徹底するとともに、「三重県民の森」の持つ自然環境を最大限に活用したイベントを実施することにより、公園のPR並びに来園者の増加に努め、以下のような事業を行った。

ア) 県民の森の施設及び設備の利用に関する業務

- ・園内各施設の団体利用に関しては、窓口での利用申請受付の他、インターネットによる広報、受付も行い、事前に施設の情報提供や利用に係るノウハウの提供を行った。また来園者の要望を受け、職員が自然観察ガイドや自然体験教室を実施するなど、利用者へのサービスに努めた。
- ・感染症対策として、ウェブサイトや園内の掲示などで新しい生活様式に則った利用を啓発するとともに、園内の利用の多い場所にアルコールを設置し、手指の消毒を励行した。また利用の制限などについて、利用者に混乱が起きないように、その都度分かりやすく案内できるよう掲示や広報等を行なった。
- ・菟野町教育委員会へは、感染症対策の休校明け以降毎週3回、子供たちへの情操教育の場として園内を提供した。また、「森の風ようちえん」との共催で、2、3歳児とその親を対象とする野外保育事業「小さな森のようちえん」を毎週1回、園内にて実施した。菟野町内の幼稚園、保育園を中心に、自然物を使ったクラフトキットの提供を行った。
- ・ウォーキングマップを刷新した。春夏秋冬ではなく2カ月ごとに細かくまとめたことで、自然の見どころが分かりやすいと好評だった。森林散策のセルフガイドツールとしても機能しており、コロナ禍の中で、リスクの低い森林散策の促進にもつながっていると考える。

イ) 自然体験型のイベントの実施に関する業務

- ・感染症対策を徹底した上で、62回のイベント(うち自然体験型イベントは53回)を実施した。また満足度は全イベントで95.3%、自然体験型イベントで95.1%となり、昨年を上回った。感染症対策のためイベント回数は大きく減ったが、その分1回ごとの質を上げることができたと考ええる。
- ・専門的な自然知識が必要となる「夏のきのこ観察会」(7月)や「ありんこ観察会」(8月)などは外部の専門家の協力体制のもとに実施した。また職員による申込み不要で気軽に参加できるイベントも多数実施し、特に夏休み期間の定例となった8月平日のクラフト教室では、例年通り多くの来園者に参加していただき好評を得た。
- ・日本野鳥の会三重と共催した「冬鳥観察会」(1月)をはじめ、他団体と協力してイベントを実施した。令和元年度に三重県環境学習情報センターと共催していた月一回の「季節の自然観察会」は、新たに共催として自然観察指導員三重連絡会が加わり、より多くの自然体験の指導を志す人たちに対して実践や交流の場を提供することができた。
- ・感染症対策として、参加者には事前に対策方法を告知するとともに、イベント参加者をトレースできるように全参加者の連絡先を確認。当日朝の検温、手指の消毒、マスクの着用を徹底した。また実施中も密になる状況を作り出さないよう留意した。
- ・「三重子ども森林・林業アカデミー自然体験事業」により、「めざせ!たき火マスター」を3セット実施した。コロナ禍の中で泊りのないデイキャンププログラムとなったが好評を得た。
- ・令和元年度から延期となっていた「森林とふれあう自然公園環境整備事業」により、イベント参加者と共に展示館のスロープを整備した。ものづくりのイベントとしてだけではなく、公園に残るものを自分たちで作成できたと好評だった。

ウ) 県民の森内の自然情報やイベント情報の提供に関する業務

- ・モバイル端末でも見やすくしたウェブサイトにより、より広報力のある情報発信を心掛けるとともに、タイムリーに情報を提供できるSNSを利用し、イベント報告や開花状況、自然の様子などの情報提供を行った。ウェブサイトとFacebookをあわせて118回の更新を行った。Facebookでの評価となる「いいね!」の数は1,198件となり、広報力が上がっていると考える。
- ・CTY-FM「よっかいちかふえ」での毎月イベント告知や、子育て情報誌「きらきら」へのイベント告知

掲載など、広報のためにメディアを積極的に利用した。特に、つどいの広場のフウの紅葉は新聞や全国ネットのテレビなどの媒体に取り上げられ、多くの人が目見ようと訪れた。

- ・イベント参加者やウェブサイトからの希望者に対して、イベント情報を中心とするメールマガジンを月1～2回配信した。令和2年度は15回配信し、登録アドレスは1,089件となった。

② 施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

- ・植物管理、清掃管理、遊具・建物施設などの定期点検、巡回警備、修繕業務などにより、施設を清潔かつ快適に維持し、機能を適正に保持するとともに、異常個所の早期発見により、来園者の安全な利用を図れるよう努めた。
- ・植栽木の管理については、適正な時期に剪定を行い良好な景観を維持することができた。森林内の植生管理における大径木の枯損木については、危険のないよう早めに伐倒処理することに努めた。園内のサクラは老齢や病虫害の影響で枯れてしまったものもあるが、「四日市mieライオンズクラブ」などからの寄付を受けるなどして、新しい苗を植えていくことで景観の維持に努めた。
- ・建設から40年近くを経ているために多くの場所で老朽化が進んでおり、今後も修繕する必要がある箇所が増加すると思われる。令和2年度はアスレチック遊具を修繕委託し、各所の階段をはじめ、展望台、橋など大規模でない修繕は職員で行った。
- ・今後補修が必要な個所としては、遊歩道の階段や手すり、藤棚、あさけの流れにかかる橋などがある。老朽化が進んでいるため、危険がないか注視し、必要に応じて供用中止などの措置をしていく必要がある。
- ・令和元年度の豪雨によって使用中となっている鹿の谷林道やウォーキングコースCコースは、三重県による復旧工事が行われており、令和3年度にも引き続き実施予定である。
- ・資格を持つ職員により有害駆除を行い、シカ4頭、イノシシ1頭を駆除した。

③ 県施策への配慮に関する業務

- ・新型コロナウイルス感染症の蔓延により、三重県より「新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた三重県指針」が出され、各時期において更新されたが、その都度、来園者への対応やイベントの中止、休館・駐車場の閉鎖など、適切に対応した。
- ・「みえ生物多様性推進プラン」に沿って、希少動植物の保護・調査や外来生物の駆除などを行い、生物多様性が保全された森林公園を目指した。四日市西高校が主導して行っているフクロウ保護プロジェクトにも引き続き協力し、園内に設置した巣箱からは3羽のフクロウを巣立たせることができた。
- ・自然学習展示館内に木育拠点施設が入ることとなり、工事のため9月より休館とした。利用者には混乱が無いように、案内や木育施設についての説明などを行った。

④ 情報公開・個人情報保護に関する業務

- ・「三重県民の森の管理に関する情報公開実施要領」を策定し、対応した。
- 令和2年度請求件数：0件

⑤ その他の業務

- ・令和2年度における事故は、1件の負傷事故であった。

(2) 施設の利用状況

公園施設全体の利用者数	成果目標	令和元年度実績	令和2年度実績	達成率
	120,000人	158,658人	173,287人	144.4%
顧客満足度	成果目標	令和元年度実績	令和2年度実績	達成率
①施設利用者	80%	87.4%	85.9%	107.4%
②自然体験型イベント参加者	92%	94.7%	95.1%	103.4%

2 利用料金の収入の実績

指定管理をしている箇所で利用料金を徴収している箇所は無し。

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

収入の部			支出の部		
	R元	R2		R元	R2
指定管理料	23,890,000	24,108,000	事業費	3,021,377	3,060,673
利用料金収入	0	0	管理費	22,171,572	22,323,788
その他の収入	1,389,090	788,074	その他の支出	0	0
合計 (a)	25,279,090	24,896,074	合計 (b)	25,192,949	25,384,461
収支差額 (a)-(b)	86,141	△ 488,387			

※参考

利用料金減免額	—
---------	---

4 成果目標とその実績

成果目標	施設利用者数	施設利用者の満足度	自然体験型イベント参加者の満足度
成果目標	120,000人	80%	92%
成果目標に対する実績	173,287人	85.9%	95.1%
今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数について コロナ禍の影響もあり、過去最高の利用者数となった。例年なら最も利用者の多い春から初夏にかけて利用者数は伸び悩んだが、秋以降は利用者が増加し、前年の倍の来園者数を記録する月もあった。閉鎖的な環境を避ける利用者の傾向があったと思われるが、この状況の中で利用したくなる公園として選ばれているのは、普段の管理運営によるものとも考える。今後も公園のニーズは高いと思われるため、新しい生活様式に則ったうえでの利用を促進していきたい。 ・施設満足度について 自然管理については来園者の満足度が高く、森林部分においては自生の植生を保護し、公園部分については植栽木を適切に管理するなど、良好な景観の維持に努めた結果だと考える。ただし施設管理については満足度が低い傾向が見られ、施設の老朽化などが影響していると考えられるため、今後も補修、改修を進めていきたい。施設満足度を計る指標となる施設アンケート枚数の減少は、コロナ禍や改修などで自然学習展示館が利用できず、最も記入しやすい場所がなくなったことが影響していると思われる。アスレチックや広場などの利用者は多いことから、屋外に設置しても記入しやすい状況を整える必要がある。 ・イベントについて コロナ禍によるイベント自粛などにより、前年度に比べ実施回数は大きく減少した。その中でも、満足度は高くなっており、回数が減った分、内容を充実させることができた結果といえる。感染症予防については、検温、手指の消毒、マスクの着用、三密の回避など基本的な対策を徹底するとともに、動画の配信など感染症のリスクがない方法での自然体験の提供を模索した。感染症のリスクの少ない屋外での自然体験については、観察会の依頼や、参加者数の増加など、ニーズが高まっている様子がうかがえる。今後も感染症対策を徹底した上で、様々な形で自然体験を提供していきたい。 また月1回の定例で行った「季節の自然観察会」や「星空観察会」は、毎月参加するというリピーターもいるほど、定期的に公園を訪れるファン層を増やすことにつながっている。今後も引き続きこうした定例イベントを開催していきたい。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境について 園内の植栽木に関して適正な管理を行っていくとともに、森林部においては外来の植物を間引くなど、本来の自然植生を維持する森林管理を行った。また、キンランのマーキング調査やフクロウの保護プロジェクトなど希少な動植物の保護管理活動は引き続き継続する。 ・ ボランティアについて ボランティアグループであるモリメイトについては、より広く広報するとともに、楽しめる活動を行うことで会員を増やしていく。特に若い世代の加入者を増やし、活動を活性化させる。
--	---

5 管理業務に関する自己評価

評価の項目	評価		コメント
	R元	R2	
1 管理業務の実施状況	B	B	普段の清掃、適切な植物管理、日々の巡回による異常個所の早期発見など、施設の適切な維持管理、環境の美化に努めることができたが、まだ修繕の行われていない箇所についてはより注意していく必要がある。
2 施設の利用状況	A	A	年間利用者数の目標達成率は、A評価基準を上回り過去最高の 144.4%となった。
3 成果目標及びその実績	B	B	自然体験型イベントの満足度、施設満足度ともに目標を上回ることができた。

※評価の項目「1」の評価 : 「A」 → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」 → 業務計画を順調に実施している。
「C」 → 業務計画を十分には実施できていない。
「D」 → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価 : 「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」 → 当初の目標を達成している。
「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	<p>4月からの休館に始まり、コロナ禍への対応を迫られる一年となった。結果として、来園者数は過去最高を記録することとなり、感染症リスクの低い広い場所を求めるニーズと、野外や自然の中でのアクティビティに対する関心が高まっていることが伺える。この傾向は今後も続き、利用の制限なども断続的に継続していくと思われる。</p> <p>リスクの低い屋外での体験に対するニーズはより高まると思われることから、感染症の防止対策を徹底した上で、自然や森林に親しめる場所として活用してもらえるように取り組む。</p> <p>イベントについても、引き続き感染症対策を徹底した上で自然体験、森林体験を提供していく。今後は、実施したイベント内容の動画配信をはじめ、ネットを活用したオンライン講座や、自宅で出来る自然体験キットの開発など、コロナ禍における安全な自然体験、森林体験のプログラムを開発していく必要があるといえる。</p> <p>収支状況については、イベントの実施回数及び参加者数の減少に伴い、自主事業収入が減少した。より高いサービスを提供するため自主事業収入を見込んだ運営に取り組んでいることから、この影響が収支に響くこととなった。</p> <p>令和3年度からは自然学習展示館内に木育拠点施設がオープンする。コロナ禍の中でも安全安心に利用してもらえるような運営に取り組むとともに、県民の森の魅力である広々とした森林など既存の施設と組み合わせ、効果的な木育が行えるようなプログラムやキットの開発を行なっていきたい。</p>
--------	---